

3 評価シンポジウム

(1) 出席者

運営モデル地域担当者が発表者として参加し、設置モデル地域担当者及び全国の都道府県・市町村から地域協議会設置・運営に関する検討を行っている団体担当者が任意で出席した。

(2) 委員名簿

【中央企画委員会学識経験者】

委員 宮本 みち子（放送大学教養学部教授）
工藤 啓（NPO法人「育て上げ」ネット理事長）
齊藤 万比古（国立国際医療センター国府台病院精神科部門診療部長）

(3) 実施内容

ア 実施目的

評価シンポジウムでは、運営モデル地域において見られた成果について広く情報発信し、地域協議会設置検討中、又は設置済の地域に対する参考となる知見を共有するために実施している。

イ 実施概要

運営モデル地域（札幌市、横浜市、豊橋市、上板町、北九州市）からの情報提供と、学識経験者委員による講評、参加者からの質疑応答を行った。

(4) 実施結果

ア 評価シンポジウムにおける発表内容

(i) 札幌市

■ スーパーバイズ事業の目的

- さっぽろ子ども・若者支援地域協議会、ならびに協議会を経ない個別ケース検討等では、支援が必要と関係機関に認知されたケースについての対応は、相当スムーズに行われるようになっている。
- 課題は、関係機関に十分認識されていない子ども・若者の発見・誘導等、予防を含めた包括的な子ども・若者支援である。また、予防や早期発見の点では、若者支援総合センターの認知度を上げるためのノウハウの構築も課題である。
- 25年4月に若者支援総合センターがアクセスしやすい場所に移転することも鑑み、同センターが、協議会の総合拠点（プラットフォーム）として機能するための役割や取組等について、上記の課題（予防を含む支援、中間的就労を含む支援）

への対応方策を中心に、スーパーバイズを受けた。

- また、札幌市には若者活動センターもあり、若者支援総合センターと連携した事業展開についても、検討した。

■ スーパーバイズ事業の実施記録

図表 17 実施内容

回	日時・場所	出席者	スーパーバイズ実施記録
1	平成24年8月3日 札幌市若者支援総合センター	・宮本教授 ・札幌市若者支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者支援のプラットフォームとしての協議会、若者支援総合センターの役割について ● 予防・早期発見の強化に向けた取組について ● 中間的就労の参考となる取組等について
2	平成24年9月25日 野村総合研究所	・宮本教授 ・札幌市若者支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 予防・早期発見の強化に向けた取組について ● 中間的就労の支援に向けて検討が必要な点について
3	平成24年12月20日 野村総合研究所	・宮本教授 ・札幌市若者支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度の実務者会議の持ち方について ● 予防・早期発見の強化に向けたユースワーク(若者の余暇的・文化的活動)について ● ストリートワーク(路上での支援)の可能性について
4	平成25年1月15日 市民活動プラザ星園	・宮本教授 ・平塚真樹教授(法政大) ・札幌市若者支援総合センター、若者活動センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 予防・早期発見の強化に向けたユースワーク(若者の余暇的・文化的活動)について ● 若者支援のプラットフォームとしての協議会、若者支援総合センターの役割について、若者活動センターの活用を併せた今後の取組について

■ スーパーバイズ事業の成果

- 大都市における予防・早期発見の充実という、難易度の高い課題について、スーパーバイザーからは、国内外の事例等の示唆を提供いただきながら、札幌市若者支援総合センターが構想していることのよい点や、同センターが行っている萌芽的な取組の重要性を後押ししていただいた。
- 予防・早期発見のための具体的な取組として、高校との連携や若者支援総合センターの姉妹的な拠点である若者活動センターの活用、さらには社会教育部門(公民館や児童館等)との連携強化等、スーパーバイズを通じて、具体的な方向性が見えてきた。
- スーパーバイザーのアドバイスをもとに、今年度は試行的に
 - ・若者支援施設において高校生対象事業を行い、当事者のニーズを聞く
 - ・市の少年育成指導員の巡回指導に同行し、家庭にも学校にも居場所がない10代の若者の動向を調査
 といった取組を行い、今後の予防的アプローチの検討材料とした。

(ii) 横浜市

■ スーパーバイズ事業の目的

- 横浜市子ども・若者支援協議会による意見提案
 - ◇ 【課題】子ども・若者支援人材育成機能を充実し、横浜市にとどまらず、全国を対象とすることも視野に入れて、段階的・包括的な自立支援システムを支える人材や団体を育成すること。
 - ◇ 【提案】「青少年総合相談センター（仮称）」を設置し、同センターを中心に民間団体等との連携により、総合的に人材や団体を育成。
- 課題解決に向けて取り組む重点事項
 - ◇ 青少年相談センターにおいて、ひきこもり等の若者のアセスメントのモデルづくりに取組、関係団体等にノウハウを提供していくことで、困難を有する子ども・若者を適切な支援につなげていく相談支援・機関連携の仕組みを構築する。
 - ◇ 青少年相談センターにおいて、体系的に人材育成研修を実施し、センター職員及び関係機関等の相談支援スタッフのスキルアップを目指すとともに、研修を通じて、様々な機関に属する支援者同志の顔の見える関係を築いていく。
 - ◇ 青少年相談センターによる人材育成の仕組みづくりの検討にあたっては、横浜市職員の配転制度も念頭に、効果的な人材育成・人材配置のあり方について検討する。

■ スーパーバイズ事業の実施記録

図表 18 実施内容

回	日時・場所	出席者	SV実施記録(簡易な議事メモ)
1	平成24年9月13日 横浜市青少年相談センター	所長、副所長、係長、相談員9名	長期的なひきこもり状態にある若者への支援におけるアセスメントについて検討し、助言を得た。
2	平成24年11月20日 横浜市青少年相談センター	所長、係長、相談員8名、オブザーバー3名	発達障害の傾向がありひきこもり状態にある若者への支援におけるアセスメントとアプローチ方法について検討し、助言を得た。 ・面談時における情報収集について ・支援機関としての支援のあり方、課題について
3	平成25年2月1日 横浜市青少年相談センター	所長、副所長、係長、相談員9名、オブザーバー2名	支援過程でひきこもり度が増してしまった若者への支援再開にあたってのアセスメントと支援計画について検討し、助言を得た。

■ スーパーバイズ事業の成果

- ひきこもり等の若者のアセスメントのモデルづくりについて
 - ◇ 青少年相談センターでは、これまで継続支援中に定期的にアセスメントを行う場が設定されていなかったが、会議として定着させることで組織的対応力が向上。
 - ◇ アセスメント会議を効率的に運営するための技術的な助言をスーパーバイザーから得ることが出来た。
- 体系的な人材育成研修の実施について
 - ◇ 内閣府モデル事業として 21～23 年度に実施してきた「ユースアドバイザー養成講習会」を、横浜市単独事業として再構築。「若者相談支援スキルアップ研修」として 基礎コース 就労支援重点コース 応用コースに分け、講義数を 18 回から 22 回に拡大して実施。
- 横浜市職員の人事異動システムを活用した若者支援人材の育成・配置
 - ◇ 横浜市では、各区役所、健康福祉局、こども青少年局、市民局、教育委員会等多岐にまたがる「社会福祉職」の異動システムにより、様々な対象領域を経験し、社会福祉専門職のスペシャリティに加えて、社会福祉領域におけるジェネラリティを有する職員を育成。
 - ◇ 若者支援領域の青少年相談センターに社会福祉職を配置することで、社会福祉の専門性が確保されるとともに、人事異動システムを活用した社会福祉領域と若者支援領域の人的交流による支援スキルの共有がなされている。

(iii) 豊橋市

■ スーパーバイズ事業の目的

- 問題点
 - ◇ 総合相談窓口の認知度が向上するとともに、今まで必要ではなかったスキル（カウンセリング等）が必要となる相談が増加している。
 - ◇ しかし現状の体制では予算上、カウンセリングに対応できる人員を配置することは出来ないため、現状の体制で多岐に渡る相談に対応する必要がある。
 - ◇ また来年度（平成 25 年度）は相談員（臨床心理士等）の増員等総合相談窓口を組織化することを検討しているが、組織化するにあたっての土台が出来ていない。
- 目的
 - ◇ 臨床心理やカウンセリング等のスキルや経験を有するスーパーバイザーによって、現状の体制であっても多岐に渡る相談に対応できるようなスキルの向上や体制の構築を目指す。
 - ◇ 来年度、総合相談窓口の増員が可能となった場合に備えて、窓口の体制づく

りを行う。

- ◇ 市民向けに開催してきたユースアドバイザー養成講習会の修了者を総合相談窓口を含め、地域の子ども・若者支援のサポートに携わってもらうべく、そのサポート体制の構築を行う。

■ スーパーバイズ事業の実施記録

図表 19 実施内容

回	日時・場所	出席者	SV実施記録(簡易な議事メモ)
1	2012年9月11日 13:00～17:00 豊橋市総合相談窓口	生涯学習課:杉浦主幹、石川主査、松井氏、石村氏 総合相談窓口室長:横田氏 スーパーバイザー:山本氏 NRI:西山	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合相談窓口の現状共有 ● たちかわサポステにおける窓口対応等、仕組みに関する情報提供 ● 今年度の目標について
2	2012年10月29日 13:00～17:00 豊橋市役所	生涯学習課:杉浦主幹、石川主査、松井氏、石村氏 総合相談窓口室長:横田氏 スーパーバイザー:山本氏 NRI:西山	<ul style="list-style-type: none"> ● ユースアドバイザーの活用方法に関する議論 ● 来年度の増員に対する相談窓口の体制づくりについて ● SROI(Social Return on Investment:社会的投資収益率)に関する情報共有
3	2012年11月30日 13:00～17:00 豊橋市役所	生涯学習課:太田課長、石川主査、松井氏 総合相談窓口室長:横田氏 浜松市青少年育成センター:齋藤副主幹、徳田氏 スーパーバイザー:山本氏 NRI:西山	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談窓口の業務フローの確認及び来年度の相談員・ユースアドバイザーとの役割について ● ユースアドバイザー研修のプログラムについて ● 広域連携に関する取組みについて ● SROI算出結果に関する情報共有
4	2012年12月18日 13:00～17:00 豊橋市総合相談窓口	生涯学習課:杉浦主幹、石川主査、松井氏、石村氏 総合相談窓口室長:横田氏 スーパーバイザー:山本氏 NRI:西山	<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度の総合相談窓口の体制について(ユースアドバイザーの活用など)
5	2013年1月30日 13:00～17:00 豊橋市役所	生涯学習課:杉浦主幹、石川主査、松井氏、石村氏 総合相談窓口室長:横田氏 浜松市青少年育成センター 徳田氏 スーパーバイザー:山本氏 NRI:西山	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回支援機関フォーラムの内容共有 ● ユースアドバイザー養成講習会修了者向け研修会の内容検討 ● 広域連携モデルの在り方について ● 評価シンポジウムの発表内容検討

■ スーパーバイズ事業の成果

- ユースアドバイザー修了者の子ども・若者支援への活用は本市における課題であり、解決の方向性は地域全体での子ども・若者支援を図っていくことであった。
- 課題
 - ◇ どのようにユースアドバイザー修了者に子ども・若者支援に対して携わってもらうのか?
 - ◇ ユースアドバイザー修了者のスキルアップを図るためには何をすればよいのか。

- 具体的取組内容
 - ◇ たちかわ若者サポートステーションでの相談ケースの豊富な経験から、地域役員が携わることが可能な“限界”についてアドバイス。来年度の試行に向け、体制づくりを行う。
 - ◇ 相談手法をはじめ、要支援者との関わり方等初歩的なことをユースアドバイザー講習会として演習を含め、講演予定。全体的なスキルアップを図るとともに、ユースアドバイザーへ積極的関与を促す。

(iv) 上板町

■ スーパーバイズ事業の目的

- 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組づくりを行いたい。
 - ◇ 上板町では、人口規模が比較的小さく（約 13,000 人）、近所の顔が見える関係にある。
 - ◇ 支援が必要な子ども・若者の早期発見のためには、住民の理解と協力が大変効果的であり、ユースアドバイザーの活躍の場は多い。しかし、これまではユースアドバイザーらによる発見、誘導プロセスをうまく組織化、仕組化できていなかった。
- 中学校卒業後の情報を支援につなげるための仕組づくりを行いたい。
 - ◇ 上板町では比較的顔の見える関係から支援につなげることができる可能性があるが、中学校卒業後は町が把握する情報は弱くなるケースが多かった。これまでも、中学校卒業生には高校等と連携しながら情報把握につとめてきたが、今年度は、現況把握をより確かなものにするために、支援センターへ来所した経験のある子ども（本人又はその家族）を中心に、フォローアップ調査を行うことを検討した。
 - ◇ これら2点について、スーパーバイザーのアドバイスのもと、具体的なケースを題材として、関係機関の連携の在り方や協議会の機能・役割・具体的な取組等について、関係機関での検討を進めてきた。

■ スーパーバイズ事業の実施記録

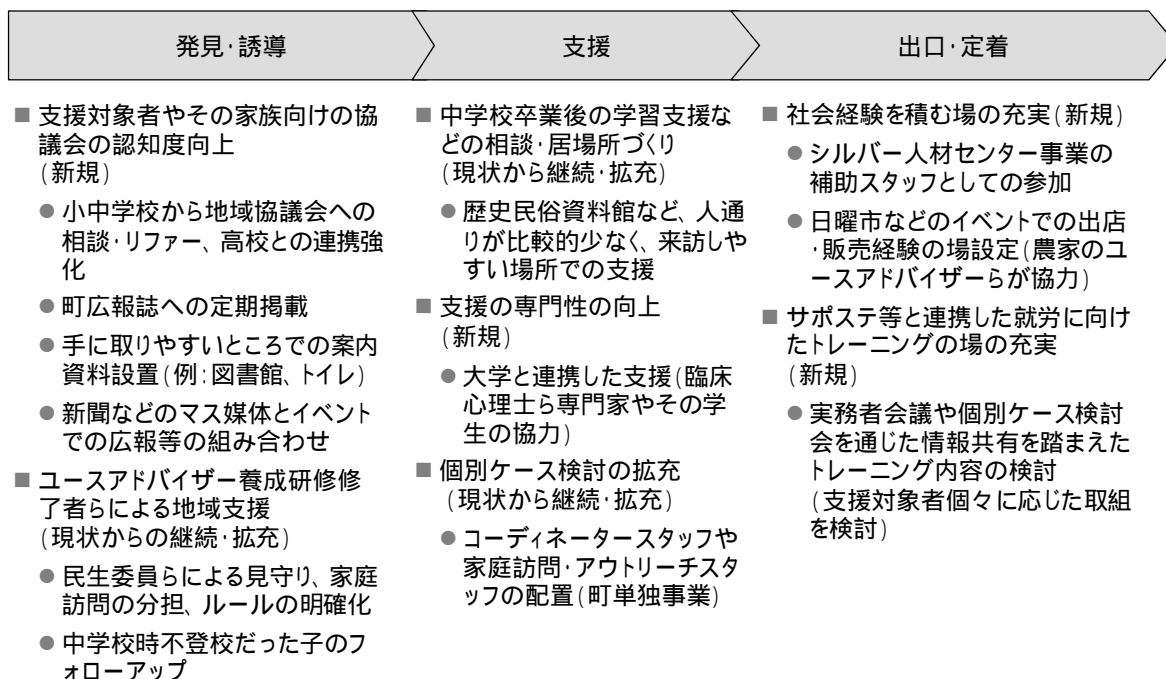
図表 20 実施内容

回	日時・場所	出席者	SV実施記録
1	平成24年9月26日 上板町役場	・地域協議会実務担当者	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成23年度事業報告と24年度事業について ● 上板町子ども若者相談支援センター(あい)の具体的な方向性及びユースアドバイザーの活用について(ケースに基づいたワークショップ)
2	平成24年11月30日 上板町役場	・石田教授 ・地域協議会実務担当者	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の実務者会議でのケース検討を受けた関連機関の連携の在り方について ● 顔の見える関係での予防と早期発見の仕組みづくりについて
3	平成25年1月18日 上板町役場	・井村良英氏(NPO「育て上げ」ネット地域担当部長) ・地域協議会実務担当者 ・ユースアドバイザー養成講習会参加者	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と地域協議会との連携について ● 地域協議会の認知度を高めるための取組について ● 若者の就労等に向けたトレーニングについて
4	平成25年2月5日 上板町役場	・石田教授 ・地域協議会実務担当者 ・ユースアドバイザー養成講習会参加者	<ul style="list-style-type: none"> ● 困難を抱える子ども・若者の早期発見・早期対応の仕組みづくりについて ● 若者の就労等に向けたトレーニングについて

■ スーパーバイズ事業の成果

図表 21 上板町におけるスーパーバイズ事業の成果

上板町の強みを活かした具体的な活動内容とその仕組みづくりについて
すぐに取り組むことと次年度取り組むことが明確になった。

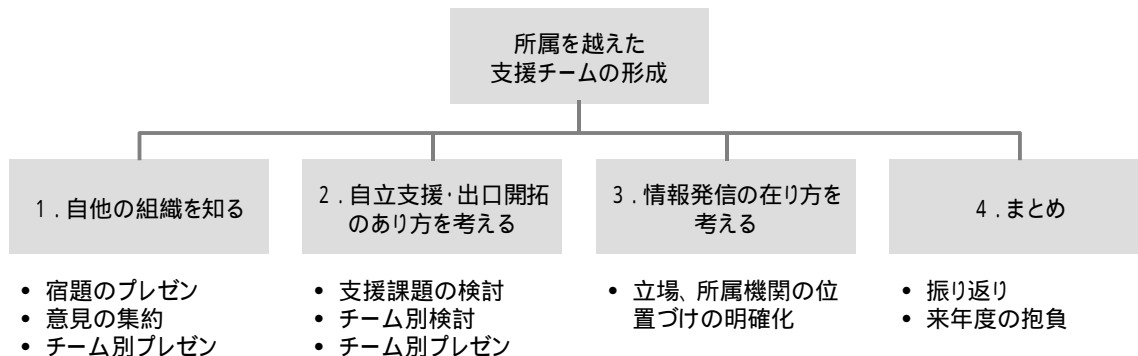


(v) 北九州市

■ スーパーバイズ事業の目的

- 地域協議会の課題解決能力の向上を目指して、以下の観点で取り組まれた。

図表 22 北九州市におけるスーパーバイズ事業の目的

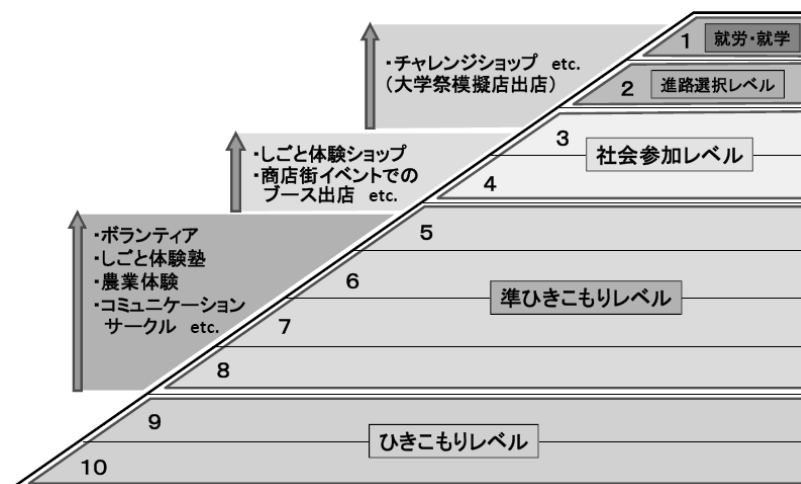


■ 実施した取組（総合相談窓口のリファーマ機能向上のためのノウハウ構築）

- 実務者会議では、総合相談窓口である子ども・若者応援センター「YELL」での相談ケースを中心として、単一の支援団体・機関では対応の難しいケースについての検討を活発に行ってきた。
- しかし、若者の状態（活動自立度）によっては、総合相談窓口から適切な支援機関へ、すぐにはリファードできないさまざまな相談ケースが寄せられていた。これまでも、若者の状態に応じた「コミュニケーションサークル」、「農業体験」、「ボランティア体験」等を行ってきたが、社会参加に向けてステップを踏むための段階的な体験活動が必要となっていた。

このことを踏まえ、リファーマまでのステップアップ体験活動を企画・実施した。

図表 23 若者の活動自立度と取組まれた体験活動



図表 24 体験活動の目的と内容（商店街イベントでのブース出店）

<p>活動概要 地域商店街のイベントに参加し、ブース出店を行う。手作り豆腐、シチューの販売を行い、塗り絵コーナー等を設置し社会とのつながりを体験する。前日に仕込みを行うなど販売までの一連の作業を体験する。</p>
<p>■YELL利用者の目的 大学生の企画内容に沿って、協同作業を行う。若者同士のコミュニケーションと、地域の人との関わりを通して、社会とのつながりを体験する。</p>
<p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. ブースの出店 ①豆腐の製造・販売 ②シチューの製造・販売 ③塗り絵・スタンプラリー2. 企画会議 毎回の会議で、どんなことをするのか、役割分担、買い出しなどを参加者全員で話し合いをしながら決めていき、実行に移していく。

図表 25 体験活動の目的と内容（しごと体験ショップ）

<p>活動概要 ショップでの販売体験を行う。手作り豆腐の製造・販売、飲み物の提供、雑貨の販売、ショップ内で行われるイベントの準備作業及び参加者への対応などの仕事体験。</p>
<p>■YELL利用者の目的</p> <ul style="list-style-type: none">○社会との接点を体験することで自信をつける○仕事のイメージを深め、就労への意欲を養う
<p>■活動内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. 施設来所者に対する接客業務2. レジ入力、売上管理など経理的業務3. 売り場作り4. 豆腐製造・販売5. 講座等の開講時に準備・片付けなどを行う、受講者へのサポート6. それぞれの特性を生かした新企画などのアイデアを出し合い、意見交換ができるようになる

図表 26 体験活動の目的（大学祭での模擬店出店）

活動概要

チャレンジショッププロジェクトの実際的な展開を通して、社会と接していくこと、プロジェクト実施に必要な知識、技能を学び経験を積むことで、実社会に必要なスキルを学んでいく。

■YELL利用者の目的

○「話し合う」ことを経験する。話し合って「決める」

○「商品」をつくる

○「売る」ことを考える

○出店のための事前準備と模擬店実践

- 実施した取組（総合相談窓口のリファーマ機能向上のためのノウハウ構築）
 - ケース検討の中で、各支援団体・機関が抱える問題点、課題に共通点があることが明らかになってきた。しかし、協議会メンバーのみで検討しても、新しい解決策が出て来ない。
 - 「支援範囲の策定」、「支援力の向上・人材育成」、「適切な支援機関との連携」、「自立支援の在り方」、「出口開拓」、「情報発信」が各支援団体・機関に共通の問題・課題として認識されている。
 - そこで、ネットワーク外部の専門家の知見と、地域支援の現場の経験を組み合わせることで、解決策導出の糸口を見つけることが重要であると考えられた。
 - 今後、北九州市が自律的に解決策を検討していくために、参加機関が所属を越えてネットワークを構成し、あたかも一つのチームとして機能していくことが必要であると考えられる。

- スーパーバイズ事業の実施記録

図表 27 実施内容

回	日時・場所	出席者	スーパーバイズ実施記録
1	12月20日(木) 15:00～17:00 子ども総合センター	実務者会議出席メンバー	・自組織の支援範囲を確認する ・他機関を知り、使いこなす ・適切な連携方法を模索する
2	1月17日(木) 15:00～17:00 子ども総合センター	実務者会議出席メンバー	・自立支援の在り方について考える ・出口開拓の考え方を身につける
3	2月21日(木) 15:00～17:00 子ども総合センター	実務者会議出席メンバー	・自組織の情報発信について考える
4	3月21日(木) 15:00～17:00 子ども総合センター	実務者会議出席メンバー	・3回のスーパーバイズ会議のまとめ

■ スーパーバイズ事業の成果

➤ 自他の組織について知ることが出来た

これまで分っていたようで、正確には理解できていなかった。

北九州市の支援構造を協議会のみんなで知る（共有）ことができた。

自立支援、出口開拓のあり方について考える自分の組織だけで対応することを考えるのではなく、組織を超えて（越境）支援することを考えることができた。

➤ 情報発信、広報戦略のあり方について考える

組織横断で協力関係、将来性について考えることができ、自組織を外部発信することができる。

➤ 支援チームの立ち上げ

所属機関を超えて、協議会チームとして支援が行える体制が明確化された。

イ 委員講評

各地域からの発表内容に対して、中央企画委員会学識者委員から次のような講評があった。

図表 28 委員講評

委員	講評内容
宮本 みち子委員	<p>札幌市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者年齢の人たちに対して、予防的なレベルから含めて、どうやって地域の中に体制をつくっていくのかということは大変重要な課題。 ・予防と申しますか、広く子どもや若者たちが来る居場所をつくりながら、そこで働く人たちが子ども・若者育成支援推進法の課題をきちんと共有しているということが、長い目で見れば、ユニバーサルな地域の仕組づくりにとって非常に重要なことではないか。 <p>横浜市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成計画の中に若者支援領域にかかわる研修体制を明確に位置づけるという御報告だったと思います。これは大変重要なこと。 ・人材の中で子ども・若者にかかわる人材は割合とすると圧倒的に少ないはずだと思う。小さい子どもに関しては、ある程度確立してきているかと思うけれども、中間のところ、青少年から若者あたりのところは、この5年からもう少しの期間、いろいろな形で取組が始まったんですけれども、歴史からすると圧倒的に短いので、計画的な人材養成が遅れているところだと思う。その点で、横浜が人材育成をきちんと取り組もうということは大変重要な問題提起。 <p>豊橋市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユースアドバイザーの研修を広くオープンに、狭い範囲でなくて、かなり広げた範囲で研修をされてきている。 ・その方たちが相当育っている。その方たちを地域の中でどのように位置づけていくかという課題を提起されている。 <p>上板町に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上板町の特徴は、顔の見える関係で、日常的にも近隣の関係が非常に密なところで、しかし、子どもたちのひきこもりや不登校は多いという中で、上板町は最初的时候から取組が始まっている。

委員	講評内容
	<p>・それでも、例えばキーパーソンが異動すると、数年のせっかくやったことがなくなってしまう可能性が言われている。ここをどうやって防止しながら継続性、持続性を仕組としてつくっていくのかということが提起されていて、これも非常に重要なこと。</p> <p>北九州市に関して</p> <p>・法的な根拠も持って中間的就労の場をつくるということに挑戦している。</p>
齋藤 万比古委員	<p>札幌市に関して</p> <p>・予防は重要であるが、その中でも居場所の位置づけが明確化されていることが重要。</p> <p>横浜市に関して</p> <p>・アセスメントのシステム化に取り組んでいる。</p> <p>・システム化して共通の認識を支援者たちが広く共有していけるシステムをつくることに意義がある。</p> <p>豊橋市に関して</p> <p>・ユースアドバイザー研修を市民にまで広げて、市民といっても、それなりの立場を持った方たちという意味と思うが、公的機関や専門的なNPO等にとどまらない輪を広げていこうという、これはとても大事。</p> <p>上板町に関して</p> <p>・漠然と予防しようとしても、なかなか予防できるものではありませんから、リスクの高いグループをフォローしていくということが、どちらかといえば予防ということになるのではないかなと思いますので、とてもよい着目点ではないかなと思いました。</p> <p>・シルバー人材センターに補助員的に若者や高校生、もしかしたら中学生の参加を受け入れて、一緒にやらせてもらうところが優れた工夫ではないか。</p> <p>北九州市に関して</p> <p>・ネットワークとは、支援というものはいつも組織を超えて進むもの</p>

委員	講評内容
	<p>であって、公的機関としては組織を大きく超えることは許されないけれども、それは重なり合いながらシームレスなバトンタッチをしていくという形で解決できる。少しだけ組織の持ち分を超えるということのある程度当たり前だと思えるような信頼感を持ったネットワークができることによって実現するものだろう。そういう意味で、組織を超えた支援って、とても大事な発想。</p>
工藤 啓委員	<p>札幌市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者のヒアリングをこの規模でやったということが非常に大きいメリットだと思う。10人、20人でやっても、たまたまその人たちが言っただけじゃないのという話になってしまうと思うが、ある規模までいくと、それは社会的に信用に足るような声だろうと位置づけられると思うので、この部分は非常にすばらしい。 <p>横浜市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修をやるときに全国を目指すということは非常にいいことだと思う。全国を目指すことがいいというよりも、どの場所でやっても必要なものは必要である。例えば47都道府県全部でやると47回かかりますけれども、何かしらの形で横浜に一堂に集うとか、オープンデータで見られるということになれば、一日で全国に波及する。なので、横浜だからできる、できないというよりは、全国の横のつながりを目指して研修でも制度でもつくることを意識されていること自体は、すごく大事なこと。 <p>豊橋市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SROIの導入が最高だと思う。投資した資金に対する社会的な便益の割合は1.0を超えていると聞き、議員であるとか財政当局であるとか市民に対して、この予算は意味があるのかということを定量的に金額で意味があったと言えることが証明される。やり方によっては1.0を割りますので、意味がなかったという話になってしまうが、この手の定量化することが難しいものを、新たな手法を使って定量化し、もっと言えば、貨幣換算して開示できるような取組に最初に自治体として取り組んだのことは非常に大きな今後の期待となる。

委員	講評内容
	<p>上板町に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターの部分に大分食い込んだというのは大きな枠組みだと思う。宮本先生から中間的就労という言い方がありましたし、いろんな言葉で語られているが、一つの地域にかかる研修となり得るお仕事の権益になってしまって、結果として権益になったのはシルバー人材センターですので、解体とか厳しい言葉を言うのではなくて、障がいを持っている方とか、今回登場する若い人たちも含めて、シルバー人材センターという、年齢ではなくて地域の中で有限の仕事をいかにシェアして、何のために使っていくのかということの取組として、これは非常に大きい一歩。 <p>北九州市に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳細なデータがきちんとあり、見せていただいた。エビデンスに基づいたことをされている。

(5) 実施の様子

図表 29 地域からの発表の様子



図表 30 委員からのコメントの様子

